

みなさん、おはようございます。本日から平成22年度であります。まず、先程、永年にわたり公務員として勤務され、全国町村会自治功労の30年勤続表彰を受けられた岡本主査、赤坂主査、真におめでとうございます。

また、町の優良職員30年勤続表彰の川村主査並びに20年勤続表彰の石井主任、竹中主任、遠藤主任におかれましても真におめでとうございます。今日まで、町発展のために尽くされた大変なご努力に対し心から敬意と感謝を表する次第でございます。引き続き、健康に十分留意されまして、町民皆さんの幸せのため、「元気のでる礼文づくり」のために、更なるお力添いを賜りますようお願い申し上げます。

また、新採用の皆さん、おめでとう。

心からお祝いを申し上げますとともに、今日から私たちの新しい仲間となられましたことを歓迎したいと思います。

昨今の大変厳しい経済情勢の中で、皆さんは自ら進んで公務員の道を選ばれたわけであります。

そして、地域の皆さんも、新採用の皆さんには、特に注目し、大きな大きな期待を寄せているのでございます。

どうぞ、一日も早く仕事に慣れまして、「町民みなさんの幸せのために頑張れる役場職員」になってほしいと願っています。

また、今年は消防職員を含めますと5人の定年退職と6名の中途退職者がありましたので、小幅ではありますが人事異動を行ったところであります。

さきほど、辞令を交付させていただきました。それぞれの部署で町民の皆さんの幸せのために活躍されるよう願っております。

さて、いよいよ新年度が始まります。

これまで、8年間は所謂「三位一体改革」あるいは「歳入歳出構造改革」という名のもと、本町においては「行政改革集中改革プラン」を策定し、厳しい行財政改革に取り組んでまいりました。

まだまだ町の財政は、安心できる状況ではありませんが、職員みなさんの頑張りによって21年度末の町の貯金残高は財政調整基金が約3億3千万円、町債基金は約2億円の合計5億3千万円くらいになると見込んでおります。

もちろん、この貯金は、将来の健全な財政運営のための基金であり、安易な気持ちで基金を使いなさいと云っているわけではありませんが、これまでは本当に財源の目途がたたずに、職員の皆さんには大変な苦勞をかけてまいりましたので、私は、今、必要と考えられることに投資をすべきだと考えています。

そのひとつが「観光への投資」であります。

平成14年度を頂点にして、これまで7年連続で観光入込数が減少しています。

世界的な景気の後退や新型インフルエンザの影響など、多くの原因が考えられますが、やはり、都会の人たちから見ますと、日本最北端の礼文島は遠いわけですから、礼文島に来やすくする「きっかけづくり」、礼文島に足を運んでいただく「しかけづくり」を仕掛けるべきと思います。

そのためには礼文島の持っている資源を活用した「モニターツアー」を企画して礼文島に来ていただく機会をつくること、増やすことです。特に、道内客、札幌を中心とする道央圏の人たちに礼文島においてをいただくために効果的なお金を使っていただきたいと思います。

礼文島を愛する人や礼文島にゆかりのある人など、例えば「礼文島ファンクラブ」を立ち上げて、礼文島との交流を深めていただき、足を運んでいただくことも必要ではないでしょうか？

東京礼文会や札幌礼文会、或いは「観光庁」や「北海道観光機構」、「宗谷シーニックバイウェイ」と云った礼文島以外の人たちと連携して行うのもいいでしょう。

「官民連携」ということも云われていますので、都会の大学などとも提携して、学生のみなさんからアイデアをいただくのもいいと思います。

旅行会社との連携もあるでしょう。「温泉」もひとつの強力なアイテムになると思っています。

また、礼文島はレブンアツモリソウに限らず貴重な高山植物の宝庫でありますから、その保護育成や再生のためにさまざまな取組が必要であります。

今年から環境省が新たに5カ年計画で、100%補助の「生物多様性保全事業」を全国展開するようであります。そして、礼文島が、その保護育成や再生のためのさまざまな実証事業を行うためには最適な島であるとも云われております。

私は、これらを高山植物培養センターを中心として事業展開をしていきたいと考えております。

今年度の産業課の予定事業の中に300万円ほど予定されていますが、私は、この金額にこだわらなくてもいいと思っています。

それに、国や北海道の制度を活用する場合には、当然に、町が負担しなければならない金額もでてくると思います。それらについても、必要と認められるものには、できる限り対応していきたいと考えております。

礼文島に足を運んでいただくために有効な取組を進めていただきますよう、特に、お願いをしたいと思っております。

そして、究極的には、礼文島では忙しく足早に巡るのではなく、豊かな自然と可憐な高山植物を楽しみながら、島の海の幸を味わい、最北の島の温泉でゆったりとした時の流れを感じとれるような「癒しの島」を創り上げるための最初の年にしていただきたいのであります。

今日は、観光のことだけを申し上げましたが、他にも必要なことはたくさんあると思います。特に、今年度から5カ年の「新礼文町まちづくり総合計画」が始まるわけですが、その中にも懸案があると思います。

例えば、「医師や看護師の確保対策」であります。

今日から船泊診療所のお医者さんが升田所長だけになってしまいます。町民の皆さんが安心できる町づくりのためには医師の2名体制を確立しなければなりません。看護師等、医療技術者の確保についても同様であります。このことについては最優先課題として取り組んでまいります。

それに「国保税の問題」、「保育所改築などの子育て支援」「未来を担う子どもたちの教育」、「福祉や健康づくりの対策」、

「定住自立圏への対応」、「公共下水道から合併浄化槽に変えていく問題とその対応策」と「簡易水道施設の整備計画」、「森づくり」、「沿岸漁業の振興」や「FRP 船の処理対策」、「元地メノー海岸の駐車場問題」等々、ほかにも多くの課題があると思います。

更に、国はこれまでの補助金をやめ、社会資本整備総合交付金など「一括交付金」として地方が自由に使える制度に変えていくようであります。今後、これらの取扱要綱等が明らかになってまいりますので、その対応についても、アンテナを張り、よろしくお願い致します。

終わりになりますが、今、日本経済は、アメリカの金融危機に始まった世界同時不況から、ようやく脱却する兆しが表れ始めたと言われております。

「宗谷支庁」も 100 年に一度の大改革によって、本日から幌延町が加わって「宗谷総合振興局」となり、地方分権が身近なものとなります。

我が国初の92兆2900億円という大型予算も、年度内のスピード成長によって、景気浮揚の大きな力になるものと期待されているところであり、本町の総額53億7,630万円という22年度の予算も、礼文島のみんなが元気を取りもどすためのお金であります。

私は、みなさんの先頭に立って「元気な礼文町」を創ってまいります。皆さんも、できることは一生懸命頑張ってください。でも、できないことは工夫する。それでもダメなときは決して、ひとりで悩まず、助けがほしいと伝える勇気をもって話をしてください。そして、いつも云うところの「**清く正しく美しく**」をモットーに「**スピード感**」あふれる仕事をしていただきたいと思います。

どうぞ、職員皆さんの頑張りと更なるご支援ご協力を、心からお願い申し上げます。新しい年度にあたっての訓示といたします。